



松 明

(令和元年11月発行・隔月発行) 2019 vol.6



P6 たんぽぽ保育園 ハロウィン・消防訓練より

わかくさ病棟成人式

療育指導室長 佐々木 京 太

重症心身障がい児(者)病棟(わかくさ)の成人式が、10月30日(水)に執り行われ、新成人お二人のお祝いをしました。おひとりの患者さんは、体調が万全とはいえない状態でしたが、主治医の先生や病棟スタッフの協力のもと、無事に参加することができました。

厳かな雰囲気の中で式は始まり、石井副院長から「これからも1年、1年を健やかに過ごしてください。成人おめでとうございます。」と式辞が述べられました。また、わかくさ親の会の車田会長、須賀川支援学校の橋本校長よりお祝いの言葉も贈られました。

石井副院長から手渡された成人証書には「輝かしい未

来を祝福します」とあり、前田主任栄養士からは、「大人の仲間入り」として「こどもびーる(炭酸飲料)」が進呈されました。成人を迎えられたお二人は、「よし、今夜は晩酌だ!」と思ったかと思わないとか。

お二人に馴染みのある支援学校の先生から歌のプレゼントがあり、厳かな雰囲気だった式が、良い意味で少し和んだように感じました。最後に、お二人の20年間の思い出が詰まった、「思い出のアルバム」を上映し、感動のなか式の幕は閉じられました。

福島病院の一員として、お二人の成人をお祝いすることができて、心から光栄に思います。



本号のご案内

- わかくさ病棟成人式 1
- 看護部だより 中学生職場体験 2
- 第28回北海道東北地区重症心身障がい研究会に参加して 2
- 療育だより 作品展 ～スタンプに思いを込めて～ 3
- 今年も来ました!! プラネタリウムin福島病院 3
- 看護学校だより ボランティア活動に参加して一番感じたこと 4
- 防災訓練に参加して 4
- 第73回国立病院総合医学会に参加して 5
- たんぽぽ保育園 ハロウィン・消防訓練 6
- この季節の感染管理について 6
- 健康プラザ ○〇ゼロは本当?～栄養成分表示について～ 7
- 地域医療連携室だより MRI装置および骨塩定量装置更新のお知らせ 7
- 外来担当医表 8

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

看護部だより

中学生職場体験

第5病棟 副看護師長 小山 美紀子

8月23日（金）に須賀川市立第三中学校の2年生4名が、職業体験をしました。

将来の生き方について考え目的を持って生きる態度を養うことを体験のねらいとしました。

各専門職から、どのような仕事の内容か、患者様とはどのような場面に関わっているかという視点で説明があり、中学生からは「その職種になる為には今後どのような学校に進めばよいですか」「仕事のやりがいは何ですか」などの質問が積極的に聞かれました。

特に検査科でA B O式血液型検査を見学した際には、「薬剤を利用して検査しているなんて知らなかった」と驚きの声が聞かれました。

今年度はテレビドラマの影響もあり、放射線技師を目指している学生が一番多くいました。

体験を終えた後、「それぞれの職種の方々が責任を持って一人の患者さんのために協力して働いている」「看護師も今後検討したい」との言葉が聞かれ、今回の経験が医療職を目指す後押しになれば幸いです。夢に向かって頑張してほしいと願っています。



看護部だより

第28回北海道東北地区重症心身障がい研修会に参加して

第5病棟 看護師 佐藤 拓貴

令和元年9月28日（土）、いわき市で第28回北海道東北地区重症心身障がい研修会が開催されました。「障がい児（者）とともに～より豊かな生活を目指して～」のテーマの下、「カニューレフリー患者の気管切開孔の保護方法とそれに伴う弊害の有無に関する実態調査～重症心身障がい児（者）を対象として～」について、ポスターセッションで発表を行いました。

ポスターセッション発表は初めてのため、少し緊張しましたが、多くの方が閲覧し、参加者からは、保護具に関する質問や今後の調査範囲に対して貴重な意見をいただきました。反省点としては、写真や実物等の資料がなく、分かりにくい部分があったことです。今回の発表で得られた意見や反省を、今後の活動や発表の中に活かしていきたいと思えます。

会場では他にも、患者・家族のより豊かな生活を目指して、様々な演題が発表されており、当院でも伝達実現

していければと感じます。このような機会をいただき、感謝申し上げます。



9月18日（水）から1週間、療育棟にて作品展を開催しました。療育指導室では平成29年度より作品展を企画していますが、今年は「Stump Art Project」と題し、療育活動内で取った152人一人ひとりの手形・足型とそれぞれの笑顔の写真を展示しました。そのほかにも、各病棟の療育活動の様子や患者様との製作物、院内活動の紹介を展示しました。

「One Stump One Story ～スタンプの数だけ思いがある～」と入口の紹介文に書いてあったように、手・足形の色や模様、療育活動の様子にも、個々人・各病棟の個性や思いがにじみ出ていたように感じました。

行事日には、たくさんのご家族に来ていただくことが

できとても賑やかなひと時となりました。ご家族と共に自分の手足形・写真を探し、「あったね」と笑いあう方、以前病棟が同じだった患者様の写真を見つけて懐かしく思うようにじっと見つめる方、装飾の前で写真を撮る方など、足を運ぶ中でも、みなさん様々な思いがあったようです。

行事日以外でも、職員や支援学校の先生方など、様々な方が見に来てくださいました。3つの病棟で作り上げた、たくさんの思いが詰まったこの作品展が、たくさんの方の目に触れ、さらに笑顔を届けることができたこと、大変うれしく思います。ご来場、ありがとうございました。



草木が赤く色づき始めてきた10月初旬、昨年に引き続き今年も星つむぎの村の方に来院していただきプラネタリウムを行いました。

患者さんの状態に合わせてお部屋での上映と療育棟でそれぞれ鑑賞しました。星が天井全体に反映されると、みなさん目を輝かせて星空に見入っていました。天体が大きくなって近づいてきた映像が流れたとき、みんなで両手を伸ばして「せーの、よいしょ」と掛け声をかけ合いました。天体を遠くに飛ばすと笑い声があふれ、楽しさと一体感を共有することができました。

お部屋での上映では、看護師さんやご家族と一緒に、生まれた月の星座を探したり、ナレーションの担当の方が、事前に調べた生年月日から星座を教えていたりしていました。今時期に見ることができる星座を説明してい

たので、その晩夜空を見ていた方もいらっしまったかもしれませんね。今回、一人ひとりに合わせた上映方法にすることができ、素敵な思い出の一つになったと思います。これからも心に残る行事を続けていきたいと思いません。



看護学校だより

ボランティア活動に参加して一番感じたこと

附属看護学校 15回生 橋本千里

今回、学校行事のボランティア活動で病院玄関前と中庭の除草作業を行いました。最初は草を取りきることのみ考えており、この活動によって入院患者さんにどのような影響があるのかなど考えていませんでした。しかし、草むしりをしている最中に病室を向き、ふと顔をあげると病室のベッドに座った患者さんがこちらを見て、にこにこ笑っていらしており、その笑顔を見た時私は、自分たちが今行っている活動は患者さんの療養環境を整えるという行為であり、それによって患者さんが病室から見えることができる限られた風景が少しでもきれいになり、心理的な面でよい影響をもたらすことができるのではないかと感じました。

この活動を通して私は、患者さんの療養環境を整えるということが室内だけでなく、患者さんが見ている景色も含まれることを知ることができました。特に長期間の入院を強いられている患者さんにとって、窓から見える景色は影響するものが大きく、草が生い茂り荒れてい

れば気分は下がり、逆に花などが咲いているのを見れば気分は明るくなり散歩に出てみたくなるかもしれません。今まで療養環境を考えると、患者さんが目にする景色のことは考えられていませんでしたが、このボランティア活動を通し自分の視野を広げることができたため、自分たちにとって得るものが大きい機会となりました。



看護学校だより

防災訓練に参加して

附属看護学校 17回生 三部桃佳

10月11日（金）に秋の防災訓練が行われました。今回は学生がそれぞれ住んでいる地域のハザードマップを準備し、自宅の近くの避難所を各自確認しました。また、地域毎のグループで水害が起きた場合の通学路の浸水や土砂崩れの危険箇所をチェックしていき、対応など話し合いました。各グループの発表では、地形を踏まえた危険箇所や安全な避難方法、防災リュックの準備の必要性などもあがり、とても活発な発表となりました。そして翌日12日から13日にかけて台風19号により記録的な大雨となりました。台風の影響により浸水などの被害が起こり、ライフラインがストップしてしまうほどでした。

しかし今回、台風直前に防災訓練を行えたことで、災害に対する意識を高めたうえで台風に備えることができました。看護職種は患者さんなど人々を守る立場にあります。そのためにはまず自分の命を守ることが必要です。訓練を重ねることで普段から災害に対する意識を高め、身の回りの安全確保に努めることができますと思います。

今回の防災訓練、台風19号を通して改めて対策の重要性について考えることができました。地域の一員としては、普段から地域住民と災害時の危険箇所など話し合っておくことが大切だと考えます。今回の学びを大切に自分の命、患者さんなど他者の命を守るため、さらに意識を高めて行動していきたいと思います。



第73回国立病院総合医学会に参加して

企画課 契約係 成田 麗

愛知県名古屋市で開催された第73回国立病院総合医学会に参加しました。私は、「当院のベンチマークシステムを活用した診療材料費の削減方法について」という演題でポスター発表を行いました。

ベンチマークシステムとは自分の施設の購入価格を、他の施設と比較して高いのか、安いのかをS・A・B・C・Dの5段階で評価するシステムです。このベンチマークシステムを活用し、経費削減のため診療材料費の削減に取り組みました。取り組みを通して、ベンチマーク判定は20%以上向上し、年間削減率は3.7%にも及びました。今後も経費削減のため、価格交渉や切り替えに邁進したいと思います。

今回初めて総合医学会に参加し、他施設の取り組みや見解を拝見することができました。また事務職員同士だけでなく、他職種の方々とも交流をもつことができ、新たな視点を得ることができました。発表は大変緊張しましたが、無事発表を終えられたことは自分にとって大きな自信になりました。今回、このような機会をいただい

たこと、またたくさんのご協力をいただいて総合医学会に臨めたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。



第73回国立病院総合医学会に参加して

医事企画連携室 診療情報管理士 安藤 正次

学会では「電子カルテシステム更新を行った当院の対応について」をポスター形式で発表しました。医療情報システムに関する発表は2日目のみで、12題ありました。4年前の学会では、口演、ポスター合わせて24題あったので、かなり数が減っている状態で残念と思っておりました。

発表内容は、システム担当として関係するのは、6題あり、近畿中央呼吸器センターのサーバ室のエアコンが停止し高温となりサーバ停止、電子カルテ等データ1日分欠損が印象に残りました。

福島病院でも電子カルテデータが消えない様に、温度管理・監視したいと思いました。貴重な経験をさせていただき感謝致します。今後も病院情報システムの対応に活かせるよう努力致します



たんぽぽ保育園 ハロウィン・消防訓練

管理課 庶務係 熊澤 龍

たんぽぽ保育園では季節ごとに様々な行事を行っています。10月31日(木)には、ハロウィンのイベントで仮装した子供たちが病院を訪問してくれ、かわいい姿を見せてくれました。11月18日(月)には消防訓練を行い、みんな真剣に避難方法の話を聞いていました。消防署の方から、火事になったら先生の言うことを聞いて、ハンカチで口を隠してしゃがみながら外に出てください。との説明に、ハイ!と元気な声で返事をして、実際に訓練の煙が充満した部屋から上手に避難が行えました。



この季節の感染管理について

感染管理認定看護師(副看護師長) 高橋 雄司

突然ですがクイズです。第一問、推定約1,000万人、これは何の数字でしょうか?第二問、約10,000人、これは何の数字でしょうか?少し考えてみてください。

須賀川市を含む県中保健所管内ではインフルエンザが小流行となりました。近郊の小学校では学級閉鎖となっているところもあるようです。昨年はインフルエンザが大流行となり辛い思いをした人も少なくはないのでしょうか。十分な感染対策を行いインフルエンザに罹らないように過ごしましょう。

インフルエンザ対策は、しっかりと手洗いをする、人ごみにはできるだけ行かない、マスクを使う、ワクチンの予防接種を行うことなどがあります。外出時は手洗いができないこともあるのでアルコール消毒剤を携帯する

と良いでしょう。

ここまで読み進めたところでクイズの解答です。第一問、推定約1,000万人^{※1}、これは日本国内におけるインフルエンザの感染者数です。日本の人口が1億2,000万人とすると約8%の人がインフルエンザに罹っているということになります。第二問、推定約10,000人^{※2}、これは直接的及び間接的にインフルエンザの流行によって生じた死亡推計数です。交通事故による死亡者数が約3,500人です。交通事故よりインフルエンザで亡くなる人が多いということには驚きです。

インフルエンザは備えることができます。しっかりと備えて自分も周りの人も守りましょう。

※1 新型インフルエンザに関する Q&A

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/02.html>

※2 新型インフルエンザに関する Q&A

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/02.html>

※3 平成30年中の交通事故死者数について

<https://www.npa.go.jp/news/release/2019/20190104jiko.html>



近年、健康ブームで「ゼロカロリー」、「ノンカロリー」、「カロリーオフ」、「カロリー控えめ」と表示された食品が多く売られています。「ゼロ」と表示されていますが、

本当に「ゼロカロリー」なのでしょうか。表1は消費者庁から出されている「食品表示法に基づく栄養成分表示のためのガイドライン」から抜粋したものです。

●表1

表 示	〇〇ゼロ、ノン〇〇、無〇〇等	〇〇オフ、低〇〇、〇〇控えめ等
	食品 100g (100ml) 当たり	食品 100g (100ml) 当たり
熱 量	5kcal (5kcal)	40kcal (20kcal)
糖 質	0.5g (0.5g)	5g (2.5g)
脂 質	0.5g (0.5g)	3g (1.5g)
ナトリウム	5mg (5mg)	120mg (120mg)



食品表示法に基づく栄養成分表示のためのガイドラインより

500ml ペットボトルの飲料も 100ml 当たり 5kcal 未満であれば「ゼロカロリー」と表示することができます。同じ量を摂取する場合は通常の食品を食べるよりも熱量(カロリー)は少なくなります。多量に摂取すると熱量は多くなります。他にも「糖質ゼロ」と記載されているアルコール飲料ですが、「糖質ゼロ」だから熱量が少ないというわけではありません。「糖質ゼロ」と表記で

きる糖類アルコール飲料はアルコール度数が熱量へ大きく影響します。糖質は 1g 当たり 4kcal ですが、アルコールは 1g 当たり 7kcal であるため、「糖質ゼロ」であってもアルコール度数が高ければ、当然熱量も高くなってしまいます。栄養成分表示の正しい見方を知り、自分に合った食品を選びましょう。

地域医療連携室だより

MRI装置および骨塩定量装置更新のお知らせ

放射線科 副診療放射線技師長 菅野 典子

福島病院では、令和元年7月に骨塩定量装置、そして9月にはMRI装置が更新となりました。

新しい骨塩定量装置は、東洋ディック社製 Horizon Ciです。従来型が前腕部の検査のみでしたが、腰椎・股関節・前腕部の3部位の検査が可能となりました。これらの部位を検査することにより、いわゆる骨粗鬆症による圧迫骨折、大腿骨骨折、手関節の骨折リスクをより詳細に把握することができます。骨粗鬆症の薬剤治療中の患者さんには薬剤効果判定に有用と思われます。

新しいMRI装置は、Philips社製 Prodiva CSです。心臓・乳房を除くほぼ全身に対応した1.5T装置です。従来型との大きな違いはデジタル機構を搭載した装置によって、ノイズの混入が少なくかつ高い生体信号収集が可能になったことです。これにより、より高精細な画像を短時間で得ることが可能になりました。また、画像を得るのに必要なコイルも柔らかく軽量化されており、体幹部に使用するコイルは、患者さんの体の上に載せる物なので、重量負担も軽減されていると考えます。四肢に

使用するコイルは、患者さんが安寧に体位をとれるような構造になっており結果的に体動の減少につながっていると思っています。

今後とも、患者さんに有用な画像・検査データの提供に努めたいと考えています。また、各医療機関様との共同利用につきましても、積極的に対応していきたいと思っております。



●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

[2019年11月1日より]

区 分	月	火	水	木	金
内 科 1	安田千尋	安田千尋			安田千尋
内 科 2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内 視 鏡 検 査				安田千尋	
脳 神 経 内 科	伊藤英一	根本和夫	伊藤英一	根本和夫	杉浦嘉泰
小 児 科	福島医大	石井希代子	河原田勉		福島医大
専 門 外 来 (発達小児クリニック)		石井勉			河原田勉
専 門 外 来 (小児神経外来)	平山恒憲 (第2)再来のみ		石井希代子 (第2・3・4・5)	加藤朝子 (第2・4)	
専 門 外 来 (小児循環器外来)			桃井伸緒 (第2・4)		
小 児 専 門 外 来	予 防 接 種 (午後)				
整 形 外 科	古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小 児 外 科				清水裕史	
脳 神 経 外 科		福島医大 (第2・4)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

- 受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承下さい。
- 外来担当医表は2019年11月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)
 診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

今年は台風19号を筆頭に、甚大な台風被害が日本中に起こりました。被災の方々に改めてお見舞い申し上げます。我が家でもあの大地震を機に防災対策を講じ、防災食・水を用意していましたが、全て期限が過ぎており、今回の「いざ!!」には役に立ちませんでした。日頃の備え大事ですね。皆様もお気を付けください。

(編集委員 Y.O)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital

独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
 ☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>